

TRIZ の理想 —TRIZ という生き方? その2—

高原 利生 ()

概要

問題は、どう生きるかと TRIZ をどうするかである。以前、TRIZ には、技術、制度の全領域の全行為をカバーする統合的思想と方法の可能性があると述べた。これが出発点である。この可能性を検証し現実化しなければならない。本稿は、そのため、第一に、今までに欠けている領域の検討として、物々交換の誕生を例に、制度誕生以前の観念の領域でのオブジェクトの動きを探り、TRIZ の全領域に対応する生きることの全体像を述べる。第二に、TRIZ の理想の方法の一部として、解の実現方法を、方法の要素の組み合わせで構築する試みを述べる。最後に TRIZ の理想の思想として本来、弁証法と TRIZ の持っている根源的極限的網羅思考の活性化が必要であることを述べる。

内容説明

1. はじめに

第4回 TRIZ シンポジウムで、目的であるオブジェクトの変更は、二オブジェクト二属性以内の場合、オブジェクト数の変更、属性数の変更、一属性の変化、技術的矛盾と物理的矛盾の処理のいずれかであると述べた。

これは、TRIZ 内の個々に行われている処理の統一ができること、TRIZ がすべての変更の科学の形式的基礎であることを意味するように見える。これが問題の始まりである。この可能性を現実化したい。

2. 物々交換と生きること

道具、言葉と並んで重要なのは、平和的な物々交換が普及したことである。物々交換には、自分の前にあるものが自分の共同体の所有であるという意識、相手の前にあるものが相手の共同体の所有であるという共同観念をお互いに持ち、自分の共同体の所有物を相手に与え、相手も同じことを同時にするという、相手のことを考えた共同観念の生成が必要である。共同観念は行動と相互作用しながらオブジェクト分割をしていく。これは、共同観念の生成の歴史と論理、制度の生成の歴史と論理である。

生きることの理想を考える。理想は、1. 正しい個人の認識、共同観念を生成し、2. 正しい議論ができ、3. 問題などの差異が解消できることである。

3. TRIZ の理想の方法

現実世界を認識し操作する理想の理論の要件は、認識可能なあらゆるものを対象とすることができ、それに対してあらゆる操作可能な変更の型を適用でき、適切な変更のための解を瞬時に得られることである。TRIZ の現状の大勢は、技術上の問題解決の様々な方法の集合体である。技術、制度を対象に TRIZ を理想化するための統一化再解釈を述べる。次の要素がある。

1) 目的のオブジェクト変更の型への変換

目的をオブジェクト変更の型に変換する。

P- O1 : 一オブジェクト一属性以内のオブジェクト変更の型へ変換

P- O2(PC)- S : 物理的矛盾の処理

P- O2(TC)- S : 事前の技術的矛盾の処理

2) オブジェクト変更の型間の変換

O1- O1 : 法則による変換

O1- O2 : 副作用が起こす変換

O2- O2(TC)- S : 副作用対処のための技術的矛盾の処理

3) オブジェクト変更の型から解への変換

O1- S : 1 オブジェクト 1 属性 1 値以内の操作と変換

O2- S : 2 オブジェクト 2 属性以内の操作と変換

これらを組み合わせて以下の四つのパターンがある。

1) P- O1, (O1- O1), O1- S

2) P- O1, (O1- O1), O1- O2, O2- O2 (TC), O2- S

3) P- O2 (PC), O2- S

4) P- O2 (TC), O2- S

現実の TRIZ は、一属性二値の処理を物理的矛盾として扱い、技術的矛盾は二属性の同時充足の一部を扱う。

4. TRIZ の理想の思想

生きることにも TRIZ にも弁証法の持っている活気を、生き方と TRIZ に吹き込むことが必要である。弁証法の活気とは第一に、弁証法は全てのオブジェクトが双方向に関連しあい運動し変化していると一瞬のうちにとらえる思想、視点、態度であると認識することである。弁証法の活気の第二は、ある程度の時間をかけて認識、変更する対象空間内のオブジェクトとそれに関係するものの構造的網羅を行い、これらの根源的極限的な変更を可能にする理想的な根源的極限的網羅思考である。